奈良県立大学「しあわせの王寺計画」

# 久度大橋改修に関する

# 提案書

〒630-8258　奈良市船橋町 10　　奈良県立大学地域交流センター
電話: 0742-22-4978　FAX: 0742-22-499
-電子メール: takatsu@narapu.ac.jp　Web: http://www.narapu.ac.jp/

# Ⅰ．背景と課題

王寺町の玄関口となる橋だが、全体的にさびしい印象を与えている。雪丸ロードの出発地点であり、観光客の第一印象を決定しうることから、改修する計画である。また、団体の歩行者が横に広がって歩き、通行の妨げとなることがあり、左側通行に誘導したい。なお、橋の強度を考慮すると、重いものを設置することはできない。

# Ⅱ．提案の目的

町の玄関口として、王寺町らしさが表現される新しい色とデザインにする。通行人を左側通行に誘導する。

# Ⅲ．具体策の提案

## 1．天井部等の色の提案

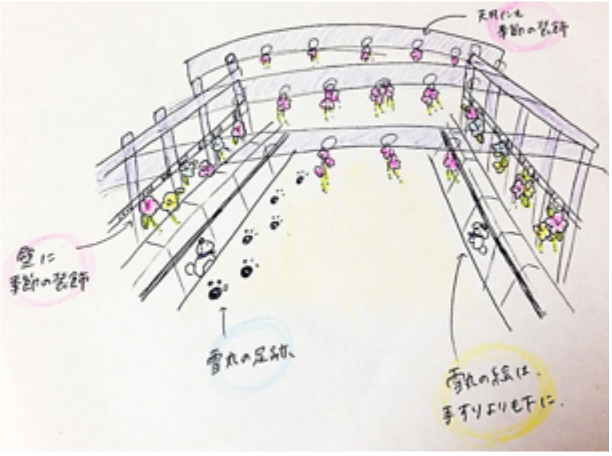
「梅紫色」を提案したい。聖徳太子と結びつけられた紫色をベースにして、町木の梅の色と結びつけて考えている。観光客とくに女性に好印象を与える。梅紫色については、橋に説明書を設けて、その意味を知ってもらう。

（参照：きもの用語大全、京都一条戻橋の看板）

## 2. 床の色

暖かく柔らかい印象のベージュ案を提案する。観光の観点から、女性をターゲットとして重視した。また、高齢者の利用を考慮すると、背景色としてベージュを使用することは、モノの認識力を高める効果が期待できる。

## 3. 床のデザイン




▲新久度大橋イメージ図　(伊津千尋　作)

雪丸の足跡を、駅から達磨寺までつなげて描く。

歩行者が雪丸の足跡を追うように歩くことで、歩行者の左側通行を誘導できる。

足跡のストーリーとしては、雪丸が達磨寺まで歩いた足跡という設定である。

### (1) 季節感を感じさせる工夫

窓の下の壁の部分に、季節に合った装飾をつけることで、歩行者が自然と端に寄って歩くよう促す。床も季節ごとにデザインを変えられるとよい。たとえば、春には桜の花びらを足跡周辺に散らし、秋にはモミジの葉を散らすなどが考えられる。

（参照：江ノ島アイランドスパ内レストランの装飾、能勢電鉄の装飾電車）

(2) 橋の内側のデザイン

橋の内部のデザインは、達磨寺をイメージできるようにする。たとえば、橋の入口部分を門のようにデザインする。

（参照：達磨寺の門）

(3) 左側通行への誘導

床の中央に、マジックアートを施し、ほんものと思える小川のイラストをいれる。雪丸の足跡に遊びの要素をいれて、川の水を飲んだ跡などを表現すると、楽しい雰囲気をつくることができる。

## 4. タッチパネルの設置

橋の近く(王寺駅改札口付近)にタッチパネル式の案内板を設置する。

「どこに行きたいか」などの目的をタッチして選べば、マッチする場所を案内してくれる機能や、町民にも便利な、イベントの情報をお知らせする機能をつける。

またカメラもつけて、雪丸のフレームで写真撮影ができる機能もあると、若者の人気を得ることができる。

5. 留意点

① 改修にあたって、新しい久度大橋に込めた思いを看板にして掲示する。

② 季節ごとの装飾は、地域のサークルや各団体の作品を集って飾る。

## Ⅳ. 期待される効果

達磨寺、冠位十二階最高位色の紫を採用することで歴史の深い王寺町にふさわしい玄関口を作り上げることができる。

橋の装飾がシーズンごとに変化することで地元の人々にもワクワク感を与える。

橋を明るくすることで、歩行者に安心感を与えるだけでなく、高齢者の転倒を予防したり、犯罪の抑止にも結びつきうる。

執筆者

伊津千尋　高津融男

編集者

伊津千尋　清水未咲、戸高彩百合、高津融男

担当教員

高津融男